

平成29年度 自己点検・評価

大学名：城西国際大学大学院

研究科・専攻名：薬学研究科・医療薬学専攻

平成29年5月26日

平成29年度 大学院4年制博士課程における自己点検・評価の内容

項目

- 入学者数、在籍者数、退学者・修了者数（※新規事項）
- 「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際の教育との整合性
- 入学者選抜の方法
- カリキュラムの内容
 - ・ シラバス
 - ・ 教育課程等の概要（別紙様式第2号）
 - ・ 履修モデル
- 全大学院生の研究テーマ
- 医療機関・薬局等関連施設と連携した教育・研究体制
- 学位審査体制・修了要件
- 修了者の博士論文名、学術雑誌への掲載状況、進路状況（※新規事項）
- 社会人大学院生への対応状況（※新規事項）
- 今後の充実・改善（※新規事項）

自己点検・評価 様式（平成29年度実施）

大学名 城西国際大学大学院薬学研究科
研究科・専攻名 薬学研究科・医療薬学専攻

○ 入学者数、在籍者数、退学者・修了者数

・平成24年度入学者

入学者数：	3名	（定員 3名）
内訳：6年制薬学部卒業生	0名	（内社会人 0名）
4年制薬学部卒業生	3名	（内社会人 3名）
薬学部以外の卒業生	0名	（内社会人 0名）
在籍者数（平成29年5月1日現在）：	0名	
既退学者数：	2名	
既修了者（学位取得者）数：	1名	

・平成25年度入学者

入学者数：	2名	（定員 2名）
内訳：6年制薬学部卒業生	1名	（内社会人 0名）
4年制薬学部卒業生	1名	（内社会人 1名）
薬学部以外の卒業生	0名	（内社会人 0名）
在籍者数（平成29年5月1日現在）：	0名	
既退学者数：	0名	
既修了者（学位取得者）数：	2名	

・平成26年度入学者

入学者数：	3名	（定員 3名）
内訳：6年制薬学部卒業生	1名	（内社会人 0名）
4年制薬学部卒業生	2名	（内社会人 2名）
薬学部以外の卒業生	0名	（内社会人 0名）
在籍者数（平成29年5月1日現在）：	2名	
既退学者数：	1名	

・平成27年度入学者

入学者数：	1名	（定員 3名）
内訳：6年制薬学部卒業生	0名	（内社会人 0名）
4年制薬学部卒業生	1名	（内社会人 1名）
薬学部以外の卒業生	0名	（内社会人 0名）
在籍者数（平成29年5月1日現在）：	1名	
既退学者数：	0名	

・平成28年度入学者

入学者数：	1名	（定員 3名）
内訳：6年制薬学部卒業生	0名	（内社会人 0名）

4年制薬学部卒業生	1名	(内社会人 1名)
薬学部以外の卒業生	0名	(内社会人 0名)
在籍者数 (平成29年5月1日現在) :	1名	
既退学者数 :	0名	

・平成29年度入学者

入学者数 :	2名 (定員 3名)
内訳 : 6年制薬学部卒業生	2名 (内社会人 1名)
4年制薬学部卒業生	0名 (内社会人 0名)
薬学部以外の卒業生	0名 (内社会人 0名)
在籍者数 (平成29年5月1日現在) :	2名
既退学者数 :	0名

○ 「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際に行われている教育との整合性

①理念とミッション

城西国際大学は、学校法人城西大学の建学の精神「学問による人間形成」を本学の建学の精神として継承し、「国際社会で生きる人間としての人格形成」を教育理念としている。また、本学大学院は、「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を深めて文化の進展に寄与すること」を目的とし、さらに、博士課程（4年制）では、「研究者として自立し、研究活動を行うに必要な高度の研究能力を養うと共に、社会の多様な方面で活躍し得る高度の能力と豊かな学識を養う」ものとしている。

薬学研究科では、高齢化と国際化が進む日本社会における保健・医療・福祉のニーズに応えて、薬物治療に関わる臨床実務の場で活躍できる科学的洞察力や、医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究力・指導力を有する、次代を担う研究者および指導者を養成していく。

②アドミッションポリシー

薬学研究科は、建学の精神「学問による人間形成」および教育理念「国際社会で生きる人間としての人格形成」を理解し、教育方針に共感を示す以下のような人を広く求める。入学にあたっては、薬剤師の資格は必ずしも必須とせず、これまでの薬学にない領域において確かな基盤的能力を有する人も受け入れる。

- ・ 6年制薬学部あるいは大学院修士課程修了相当の学力を有し、さらに深化させ、専門知識や技能を向上させるために主体的に取り組むことができる人
- ・ 医療薬学に対し強い探求心や好奇心を有し、課題解決を通して社会の発展に貢献することに価値を見出すことができる人
- ・ 異なる価値観が存在する社会のリーダーとなり、共に生きることや人が成長することに価値を見出すことができる人

③カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力を修得し、医療現場において指導的立場に立てる薬

剤師および薬学教育現場における優れた教育・研究者など、社会の要請に合った人材を養成するために、薬学研究科は、次のように博士課程のカリキュラムを編成、実施する。

- ・ 大学院生生活を充実させるため、研究立案能力を修得する初年次教育科目として医療薬学演習を設置する。
- ・ 医療薬学分野の課題に対する解決するための調査・計画・実践をおこない、科学的な洞察力や表現力を修得するため、医療薬学特論、臨床薬学特論、生命薬学特論、創製薬学特論を設置する。所属研究室において教員指導のもとで研究を行い、学位論文を作成することにより、問題解決能力や研究マインドを高め、自立した研究者としての研究遂行能力と専門知識・技能を身につける。
- ・ 専門関連分野の内容を適切に伝える表現力と質疑に対する応答力を向上させるため、専門教育科目として医療薬学特別演習及び大学院特別演習を設置する。これらの演習を通して、専門知識の幅を広めるとともに論理的な思考力を身につける。また、専門関連分野の先端研究成果に触れ、洞察力を身に着けるため、専門科目として大学院特別講義を設置する。
- ・ 薬剤疫学や医薬品評価科学に秀でた専門性を修得するために、また地域性や国際性を通じた人間力の涵養を目的として、キャリア教育科目として薬剤疫学特別演習、薬効評価学特別演習、医療政策論特別演習、地域医療学特別演習、国際薬学特別演習を設置する。
- ・ 学修アセスメント・プランを提示し、ディプロマ・ポリシーが示す能力や大学院生の成長に伴う達成度を測定、評価する。

④ディプロマポリシー

薬学研究科では、建学の精神「学問による人間形成」および教育理念「国際社会で生きる人間としての人格形成」に基づき、薬物治療に関わる臨床実務の場で活躍できる科学的洞察力や医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究力・指導力を有する、次代を担う研究者を養成することを目指す。

薬剤師・研究者・指導者となる資質として、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および最終試験に合格した者に対して学位を授与する。

- ・ 幅広い教養と深い専門的な知識・技能・態度および生涯にわたり自己研鑽に励む姿勢に基づき医療薬学領域における研究力を発揮できる能力
- ・ 医療薬学領域において課題を発見し問題を解決する能力
- ・ 科学的洞察力とリーダーシップを発揮し、地域社会・国際社会・企業社会に貢献できる能力

【自己点検・評価】

①理念とミッション

研究者として自立し、研究活動を行うに必要な高度の研究能力を養うと共に、社会の多様な方面で活躍し得る高度の能力と豊かな学識を養うため、本薬学研究科の教育課程は、特別演習科目・薬学研究科目からなる2つの特徴的な科目区分から編成している。

特別演習科目は、4年制薬学部を元に高度に発展させた演習科目群：「薬剤疫学特別演習」「薬効評価学特別演習」「医療政策論特別演習」「地域医療学特別演習」「国際薬学特別演習」からなり、大学院生はそれぞれの志向に応じた内容を選択している。

薬学研究科目では、「医療薬学演習」「各種薬学特論」「医療薬学特別演習」からなる必修科目を通じ、医療薬学分野の高度・最先端の研究への導入・計画の立案、研究の実践・展開・総括、研究成果の応用・発展を4年間かけて実施している。学習者の多様なニーズを踏まえ、医療薬学・臨床薬学・生命薬学・創製薬学の分野から、いずれか一つの特論を選択できるように配慮している。これにより、大学院生は自立した研究者としての素養を身につけることができる。

「大学院特別講義」及び「大学院特別演習」も必修科目とし、医療薬学関連分野の最先端研究事例に触れ、研究の計画性や方法論、結果や結果から導かれる結論に対し、批判的かつ建設的なディスカッションができるようにするほか、大学院生自らの研究成果や学会参加を報告したり、多様な価値観や研究の切り口をもつ研究事例を紹介することにより、研究に対する世界観を広げ、科学的洞察力・プレゼンテーション力・質疑応答能力などの醸成を図っている。

これらは、高齢化と国際化が進む日本社会における保健・医療・福祉のニーズに応じて、薬物治療に関わる臨床実務の場で活躍できる科学的洞察力や、医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究力・指導力を有する、次代を担う研究者および指導者を養成するため、総合的・複合的な実務者としての力量の修得と、科学者としての洞察力・研究マインドの醸成を可能とする教育プログラムであり、本研究科の理念・ミッションと一致している。

②アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーとの実際に行われている教育との整合性については、下記の通り実施されており、各種ポリシーと照らし合わせてふさわしいものとなっている。

入学試験を行い、面接だけでなく知識と資質を測る記述試験を行い、6年制薬学部あるいは大学院修士課程修了相当の学力を適切に評価している。これまでアドミッションポリシーに見合う大学院生を入学させてきたと考えている。大学院生たちは薬学研究科のカリキュラムに従い、医療薬学領域で科学的洞察力とリーダーシップを発揮するために必要な知識・技能・態度に関わる単位を修得している。本教育プログラムを履修させることで、ディプロマポリシーにふさわしい博士課程修了生を育成できる。

臨床試験・治験の実施や規制当局に対する医薬品申請、諸外国との調和において、薬剤疫学や医薬品評価科学の専門性を持って活躍できる人材が必要とされている。このような人材育成のために、「薬剤疫学特別演習」、「薬効評価学特別演習」、「医療政策論特別演習」を開講している。「薬効評価学特別演習」には延べ

4名、「薬剤疫学特別演習」には延べ5名が科目履修しており、薬剤疫学や医薬品評価科学分野に秀でた専門家を養成している。(これまでに、「医療政策論特別演習」は希望者がおらず、開講していない。)

チーム医療も医薬分業も、患者中心医療を推進するための方策であるが、実効性を持って根づかせるためには、地域やグループを構成する人々のヒューマンネットワークの構築が欠かせない。このような人材育成のために、「地域医療学特別演習」と「国際薬学特別演習」を開講し、フィールドワークやワークショップ形式によるチーム基盤型学習を実践することで、人と人のつながりを重視した異文化交流の中で、課題を発見し問題解決のために努力することを通じ、多職種連携やチーム医療の実践に必要とされる人間力、グループ内のマネジメント力を育成している。「地域医療学特別演習」に延べ3名が、「国際薬学特別演習」には延べ2名が科目履修しており、国際薬学分野に秀でた専門家を養成している。これらの演習は4年制薬学部を基礎として展開した博士課程の教育課程にふさわしい内容である。

薬学研究科目では、各大学院生が研究指導教員と十分話し合った研究テーマで博士論文研究を実施する。修了時には博士論文審査基準を満たす研究マインドを身につけるため、大学院生自らが医療薬学分野で解決が必要とされている課題の発見から調査・計画立案・実践を行っている。立案された研究テーマは「医療薬学演習」の中で発表され、指導教員以外の教員が医療薬学分野の高度な研究への導入・計画の立案を評価している。また、「医療薬学特別演習」では、半期に一度指導教員以外の2~3名の大学院担当教員が研究の実践・展開・発展状況を確認し評価している。複数の教員による集団指導体制の下、半期に一度の形成的評価により、4年間で着実に博士論文発表に到達できるようなプログラムになっている。修了時には4年間かけて実施している研究成果がもたらす意義を薬学研究科教員に伝えるプロセスの中で、世界に通用する研究遂行能力と情報発信能力が身に付くものと考えている。

このように、建学の精神「学問による人間形成」および教育理念「国際社会で生きる人間としての人格形成」に基づき、薬物治療に関わる臨床実務の場で活躍できる科学的洞察力や医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究力・指導力を有する、次代を担う研究者を養成しており、各種ポリシーと本学教育プログラムは整合性がとれていると考えている。

○ 入学者選抜の方法

選抜方法は、全学部の入試日程にあわせて入試が行われ、書類審査、薬学専門科目・語学科目(英語)・小論文及び面接を課している。社会人の入学においても、同様の試験を行っている。薬学専門科目では複数の設問からなる記述問題とし、必要数を選択し解答することになっている。

選抜方法 (試験)

- ① 書類審査
- ② 薬学専門科目（「医療薬学」、「臨床薬学」、「生命薬学」、「創製薬学」の各分野）の記述試験（各分野から合計10問程度の出題に対し、入学志望分野を含む3問を選択し解答する。）
- ③ 語学科目（薬学専門英語試験）
- ④ 医療薬学分野の課題に関する小論文
- ⑤ 面接（1）大学院進学の明確な目的意識、（2）希望する研究分野に関する基礎知識の確認、（3）これまでにこなした研究の概要（卒業論文、修士論文、またはこれに代わる業績の説明を含む）および（4）今後志望する研究分野の研究計画（研究主題、方法論、資料等の説明を含む）に関して、大学院担当教員2名が口述試問を行い、それぞれの教員が付した面接採点を総合して評点としている。全ての試験の採点は即日に行い、大学院委員会により合否を判定して、研究科委員会で承認を行う。

【自己点検・評価】

入学者選抜の方法に関しては、アドミッションポリシーに則って適切に実施されている。入試問題は作問の担当者が作成し、運営委員会で確認を行っている。面接に関しても薬学研究科長と他1名の大学院担当教員が厳正に実施している。入学者選抜に関して特に問題はないと考えており、これまでの入学者の質から判断しても適切な入学者選抜が行われたと考えられる。。

○ カリキュラムの内容

カリキュラム（講義・演習・特論）

「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際に行われている教育との整合性の項で記載したように、カリキュラムは以下のような構成になっている。再度掲載する。

高度な専門性を有する医療人材を養成するため、本薬学研究科の教育課程は、特別演習科目・薬学研究科目の2つの特徴的な科目区分から編成されている。

- ① 特別演習科目
 薬剤疫学特別演習 / 薬効評価学特別演習 / 医療政策論特別演習
 国際薬学特別演習 / 地域医療学特別演習
- ② 薬学研究科目
 各種薬学特論
 医療薬学特論 / 臨床薬学特論 / 生命薬学特論 / 創製薬学特論
 医療薬学演習
 医療薬学特別演習
 大学院特別講義
 大学院特別演習

それぞれの概要は

①特別演習科目

「薬剤疫学特別演習」「薬効評価学特別演習」「医療政策論特別演習」「地域医療学特別演習」「国際薬学特別演習」からなり、それぞれの志向に応じた内容を選択できる。薬剤疫学や医薬品評価科学に秀でた能力を修得することができるほか、地域性や国際性に基づく異文化交流による人間力（ヒューマニズム）とグループにおけるマネジメント力を高めることができる。特別演習科目は、2科目（4単位）以上の単位修得が必要である。

② 薬学研究科目

「医療薬学演習」「各種薬学特論」「医療薬学特別演習」からなる必修科目を通じ、研究への導入・計画の立案、研究の実践・展開・総括、研究成果の応用・発展を4年間かけて実施することで、自立した研究者としての力量を身につける。学修者の多様なニーズをふまえ、医療薬学・臨床薬学・生命薬学・創製薬学の分野からいずれか一つの特論を選択できるように配慮している。博士論文研究は各種薬学特論の中で実施する。医療薬学演習及び医療薬学特別演習において半期ごとに研究成果を発表し、チューター教員・レビュー教員から批判的に形成的評価を受けることにより、自らの研究に関する問題点を明確化し研究をさらに発展させるとともに、課題発見・問題解決能力を醸成している。

「大学院特別講義」及び「大学院特別演習」も必修科目とし、医療薬学関連分野の先端研究事例に触れ、研究の計画性や方法論、結果や結果から導かれる結論に対し、批判的かつ建設的なディスカッションができるようにするほか、学習者自らの成果や学会参加を報告したり、多様な価値観や研究の切り口をもつ研究事例を紹介したりすることにより、研究に対する世界観を広げ、科学的洞察力・プレゼンテーション力・質疑応答能力などの醸成を図っている。

薬学研究科目は、博士課程修了に必要とされる30単位のうち26単位の取得が必要である。

【自己点検・評価】

本研究科のミッションである「高齢化と国際化が進む日本社会における保健・医療・福祉のニーズに応えて、薬物治療に関わる臨床実務の場で活躍できる科学的洞察力や、医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究力・指導力を有する、次代を担う研究者および指導者を養成する」ことを具現化するカリキュラム内容で、4年制薬学部を基盤とした博士課程の教育課程に相当する高い水準のものであると考えている。

必修科目の授業後には様式に従って毎回レポートを作成し、大学院生の素養の向上を自己点検できるように成長記録を記載して提出するようになっている。また、医療薬学特別演習では提出されたレポートに対して各自にメールにてフィードバックを行っている。

大学院生の講義演習に対する評価は授業アンケートとして半期に一度行っている。アンケートでは、社会人院生の意見も含め、大学院生の知的ニーズや好奇心を誘う最先端の知識・技能の情報提供が高く評価されており、本学の教育プログラムは大学院に進学してこそ得られる高度な知識や技能を十分提供できていると考えている。

それぞれの志向に応じて、薬剤疫学や医薬品評価科学に秀でた能力を修得することができる演習を受講できるほか、地域性や国際性に基づく異文化交流による人間力（ヒューマニズム）とグループにおけるマネジメント力を高める演習を受講することができる。これらは、高度医療薬学教育の実践であり、大学院生のニーズに応じた柔軟性に富むカリキュラムを構築している点は評価できる。

博士論文研究に関わる教育課程に関しては、研究の導入・計画、実践・展開・総括、応用・発展と、4年間の科目履修により成長を促すプログラムとなっており、特論においては、指導教員以外の大学院担当教員による集団指導体制の下、半期に一度の形成的評価により、着実に博士論文発表に到達できるような指導体制を整えている。この特論において4年次前期までの形成的評価を満たしていない場合には、最終的な博士論文の審査にエントリーすることができないこととし、博士の学位の質を担保している。

「大学院特別演習」では、指導教員以外の教員の指導の下、各種文献調査や実験結果のまとめを行い、研究室のゼミ活動でプレゼンテーションやディスカッションを行い、医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究力・指導力を育成に努めている。

このような院生が志望する研究分野以外の教員の指導体制も整えており、総じて新時代の大学院教育における課程制大学院としての趣旨に沿った教育プログラムとなっている点は高く評価される。

「教育課程等の概要（別紙様式第2号）」、「シラバス」、「履修モデル」について、文末に添付した。

○ 全大学院生の研究テーマ

	研究テーマ名	研究の概要
①	大建中湯の胃血流亢進作用に関する薬効薬理学的研究	麻酔下ラットにおいて、漢方薬大建中湯は胃粘膜血流亢進作用を引き起こすことを見出した。漢方薬の適用に科学的な根拠を付与するために、その作用機序を温度感受性受容体の観点から薬理学的に解明する。
②	長期完全静脈栄養法処置ラットにおける薬物の吸収・動態変化	臨床現場で、長期完全静脈栄養法は腸管壁の萎縮を引き起こし、薬物の吸収過程を変化させると想定されている。そこで、実験動物を用いて長期高カロリー

	の解析	一栄養輸液投与による薬物の消化管吸収に及ぼす影響と機構を検討する。
③	食品群シートを用いた薬剤師の窓口業務対応に関する研究	10食品群チェックシートの使用により低アルブミンの方を抽出し、処方提案を含めた介入が必要な人の早期発見に繋がるかどうかを検討する。介入の内容と方法によってアウトカムがどのように変化するかを明らかにする。
④	週1回服用型ビスホスホネート製剤のパッケージデザインに関する調査	「チャイルドレジスタンス（CR）」とは、小児の身体能力および思考力の成人との差異を利用した小児誤使用・誤開封防止機能である。日本におけるチャイルドレジスタンス包装基準および試験法の検討、また要指導医薬品向けの新規チャイルドレジスタンス包装の開発および有用性の調査を行う。
⑤	臨床用量・曝露量と無毒性量・曝露量からみた医薬品の安全性評価	医薬品の臨床用量と無毒性量との関係に加え、ヒトと動物における曝露レベルの関係を調査し、医薬品の安全性プロファイルを評価する。
⑥	大建中湯の胃運動亢進作用に関する薬効薬理学的研究	漢方薬大建中湯は機能性ディスペプシア病態マウスモデルにおいて胃運動を亢進させることを見出した。漢方薬の適用に科学的な根拠を付与するために、その作用機序を温度感受性受容体の観点から薬理学的に解明する。

【自己点検・評価】

現時点での全研究テーマタイトルを列挙した。国内外での学会発表を強く勧めており、学会発表することによりプレゼンテーション能力を醸成されるほか、課題発見問題解決能力や研究推進能力も併せて育成されている。「高齢化と国際化が進む日本社会における保健・医療・福祉のニーズに応じて、薬物治療に関わる臨床実務の場で活躍できる科学的洞察力や、医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究力・指導力を有する、次代を担う研究者および指導者を養成する」という理念・ミッションにふさわしいテーマと考えられる。

○ 医療機関・薬局等関連施設と連携した教育・研究体制

薬局施設での研究については、大手チェーン調剤薬局に勤務している社会人大学院生が「薬剤師による健康診断データに基づく要治療者のスクリーニング」という臨床研究を行い、第74回FIP World Congress(バンコック)では、演題名「WHAT'S THE BARRIER TO CONDUCT A PRACTICE RESEARCH IN JAPANESE COMMUNITY PHARMACISTS」(コミュニティファーマシーで臨床研究するのに障害となっているものは何か)を発表した。さらに、第24回アジア薬剤師会連合学術大会(インドネシア)にて、演題名「RELATIONSHIP BETWEEN PHARMACY PRACTICE TRAINING PROVIDED IN PHARMACY SCHOOLS AND COMPETENCIES OF FRESHMAN PHARMACIST」(店舗における長期実務実習の内容と新入社員の能力の関係の調査研究)のポスター発表を行い、優秀発表賞を受賞した。本研究は大手チェーン調剤薬局と本学との共同研究として進行している。また、チャイルドレジスタンスの研究では横浜市

内保育園2施設でチャイルドレジスタンス試験法の検討が進行している。

本年度から山武地域の基幹病院である東千葉メディカルセンターとの共同研究も開始された。また、漢方薬の有用性に科学的なエビデンスを付与するために進行している研究は千葉大学医学研究院先端和漢診療学講座との共同研究に発展している。これらは、臨床の現場で問題となっているアンメットメディカルニーズを本研究科の基礎研究力で解決していこうとするトランスレーショナルリサーチとして位置付けられる。

【自己点検・評価】

2名の院生がドラッグストアや保育園などの現場でのフィールド研究を実施している。本テーマは高度医療職業人としての薬剤師の養成を念頭に置いた研究となっており、医療施設と大学院が連携指導体制を構築している点が評価される。他の4人の研究テーマも、医療機関との共同研究を通して、薬物治療に関わる臨床実務の場で活躍できる科学的洞察力や医療薬学領域の問題解決に資する自立した研究マインドを醸成している。

○ 学位審査体制・修了要件

学位論文審査体制

全学の研究科委員会は、薬学研究科内に学位論文審査委員会を設置する。学位論文審査委員会は、薬学研究科長を含む薬学研究科教員全員で構成される。学位論文審査委員会は、主査1名および副査2名を選任し（主査は指導教員以外から選任する）、博士論文単位修得要件について厳格な審査を行う。主査・副査による審査結果を受けて、博士論文発表会を開催し口頭試問を行う。これらの結果を検討し、学位論文審査委員会は博士論文の可否を決定する。全学の研究科委員会は、博士論文審査の合格を元に審議し博士学位の取得が認められる。この学位論文審査体制により、博士学位取得プロセスの透明性と厳格性を担保するほか、本薬学研究科で授与する博士学位の質を保証する。

- (a) 研究科長は、申請者からの博士論文予備審査申請を受けてその資格を審査する。資格の認められた者に対して博士論文予備審査委員会を設置し、博士論文発表会の約半年前に博士論文予備審査を実施する。博士論文予備審査委員会は、薬学研究科長を含む薬学研究科委員会の教員全員で構成される。また、必要に応じて学部外や学外からの審査委員を招聘することができる。
- (b) 研究科長は、資格の認められた者に対して、主査1名および副査2名を選任する。主査は指導教員以外から選任する。
- (c) 予備審査委員は、申請者が博士論文を作成するにあたり「博士論文審査基準 ①論文としての完成度、②研究者としての能力と可能性」に照らして最終の学位論文審査時において合格するレベルに達しうるか否かについてルーブリック表を用いて評価する。
- (d) 博士論文予備審査委員会では、可否判定を予備審査委員の挙手によって判定し、過半数の合格合意をもって決定する。議長は反対者の理由を問うことが

できる。委員会では研究科長が議長となる。

- (e) 博士論文予備審査は医療薬学特別演習の一環として実施し、審査に合格した者はレポートの提出により単位が与えられる。

博士学位取得の要件

本薬学研究科における博士学位取得の要件は以下のよう定める。

- (a) 「大学院に4年以上在籍し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、本薬学研究科の行う博士論文の審査及び試験に合格すること」
- (b) 博士論文審査を申請するものは、以下のものを期日までに、学位論文審査委員会に提出すること。
- ・ 自ら作成した博士学位論文1篇
 - ・ 自ら実践した研究に関して筆頭著者として作成・投稿した学術論文 1報以上
 - ・ (ただし、査読有の英文学術誌に掲載済み(受理は認める)の論文に限る)
 - ・ 自ら実践した活動の記録 2報以上
 - ・ (共著者学術論文、紀要、研修報告書、ポートフォリオ及び公的評価のある成長証明書等)
 - ・ (ただし、他の学位申請に用いた(る)ものは除く)
 - ・ 博士論文審査を申請するものは、別途開催される博士論文発表会において口頭発表すること。発表に際し、口頭試問による試験を行う。なお、各種薬学特論における4年次前期の形成的評価が満たされていない大学院生は、博士論文審査を申請することができない。
- (c) 博士論文審査を申請するものは、別途開催される博士論文発表会において口頭発表をすること。発表に際し、口頭試問による試験を行う。
- (d) 医療薬学特別演習における4年次前期の形成的評価が満たされていない大学院生は、博士論文を申請することはできない。この審査は、薬学研究科委員会の教員全員で構成される博士論文予備審査委員会で検討される。

博士論文審査基準について

薬学研究科医療薬学専攻における博士論文審査は、以下の基準に基づき審査する。

①論文としての完成度

(1) 独創性と発展性

- ・ 当該研究分野・領域の先行研究を渉猟し、それらを十分理解・整理した上で、自己の研究を当該分野の研究動向の中に位置づけているか。
- ・ 問題意識が明確に示されており、研究の意義や必要性が述べられているか。
- ・ 考察・見解において先行研究を超える本論文作成者の独創性が認められるか。
- ・ 論文の内容に、今後の研究への寄与・貢献が予見され、当該分野の進展を加速させるものと評価出来るか。

(2) 実証性

- ・ 論証に用いた研究結果や情報は質量に過不足なく、また論旨に合致しているか。その収集方法は適切であるか。
- ・ 研究目的に見合った方法論や理論を適切に用いて分析、考察を行っている

か。

(3) 論理性

- ・ 論証の過程において、その論旨が明確で一貫しているか。
- ・ 結論が明示されているか。

(4) 形式

- ・ 所定の体裁および、当該分野・領域の標準的な様式に倣って整備されているか。
- ・ 表記、表現が適切であるか。
- ・ 引用、注記、図表、参考文献などの用い方、示し方が適切であるか。

(5) 口述試験・公開発表

- ・ 論文の内容や意義を簡潔にまとめ、的確かつ効果的に説明できたか。
- ・ 質疑に対する応答が適切に行われたか。

② 研究者としての能力と可能性

(1) 研究者としての能力

- ・ 本論文執筆者は当該分野において自立した研究者として今後の活動に十分な期待が持てるか。
- ・ 自ら実践した研究に関して筆頭著者として作成・投稿した学術論文1報以上（ただし、査読有の英文学術誌に掲載済み（受理は認める）の論文に限る）および自ら実践した活動の記録2報以上（共著者学術論文、紀要、研修報告書、ポートフォリオ、公的評価のある成長証明書等）を公表しているか。

(2) 研究者として今後の発展性

- ・ 生涯にわたり自己研鑽に励む姿勢が認められるか。
- ・ 医療薬学領域で科学的洞察力とリーダーシップを発揮するために必要な知識・技量・態度を修得しているか。

上記の審査基準、審査点は、研究分野及び研究対象に応じた諸条件を勘案して、柔軟に適用するものとする。

【自己点検・評価】

ディプロマポリシーに従い、学位審査のための体制、学位取得要件、審査基準が明示され、大学院生・教員に周知されており、特に問題はない。学位審査は本体制のもと忠実に進めていく必要がある。

○ 修了者の博士論文名、学術雑誌への掲載状況、進路状況

	博士論文名	学術雑誌への掲載状況			修了者の進路状況
		タイトル	雑誌名	暦年・掲載号・頁	
①	薬剤師の社会的職能拡大に向けた社会薬学的研究	1) Japanese Community Pharmacists' Barriers to Conducting or Participating	Pharmacology & Pharmacy	2015年, 6巻, 421-427頁	調剤薬局 チェーン 調剤介護 本部

		<p>in Practice Research</p> <p>2) Japanese Community Pharmacists' Practice Research Literacy</p> <p>3) ドラッグストア薬剤師の実務研究に対する意識調査</p>	<p>Pharmacology & Pharmacy</p> <p>城西国際大学大学院紀要</p>	<p>2015年, 6巻, 436-441頁</p> <p>2016年, 第19号, 65-77頁</p>	
②	<p>血液脳関門機能低下マウスにおけるモデル物質の脳移行性に対する葛根湯の作用</p>	<p>1) The Inhibitory Effect of Kakkonto, Japanese Traditional (Kampo) Medicine, on Brain Penetration of Oseltamivir Carboxylate in Mice with Reduced Blood-Brain Barrier Function</p> <p>2) LPS誘発血液脳関門機能低下マウスにおけるイブプロフェンの脳移行性に及ぼす葛根湯投与の影響</p> <p>3) LPS誘発血液脳関門機能低下マウスにおけるBBB機能および死亡率に及ぼす葛根湯投与の影響</p>	<p>Evid. Based Comlement. Alternat. Med.</p> <p>城西国際大学大学院紀要</p> <p>城西国際大学大学院紀要第20号</p>	<p>2015年、2015:917670</p> <p>2017年, 第20号, 31-36頁</p> <p>2017年, 第20号, 59-68頁</p>	<p>大学教員</p>

③	坐剤製剤の薬物放出試験の評価 - 品質管理のための物理化学的試験一	1) Comparative release studies on suppositories using the basket, paddle, dialysis tubing and flow-through cell methods I. Acetaminophen in a lipophilic base suppository	Pharmaceutical Development and Technology	2016年, 30巻, 1-6頁	製薬会社 商品開発 本部
		2) Polyphenol contents and antioxidant capacities of colored rice	The Journal of Holistic Sciences	2016年, 10巻, 23-32頁	
		3) 坐剤針入度試験装置による直腸適用坐剤の軟化時間測定	城西国際大学大学院紀要第20号	2016年, 10巻, 23-32頁	

○ 社会人大学院生への対応状況

社会人院生については、休日や夜間などを利用して研究活動を進めている。社会人院生も「医療薬学特別演習」で半期に一度研究成果をまとめプレゼンし、指導教員以外の2~3名の大学院担当教員とディスカッションすることになっている。したがって、博士論文研究の進捗状況は絶えずモニターされているので、これまでの社会人院生は研究の進展が著しく遅くなるような困った事態には陥っていない。講義や演習は、社会人院生の予定をメールにて確認して夏期と冬期に集中講義を開講している。また、急な事情にて欠席してしまった場合でも、すべての大学院特別講義は録画してDVDを作製しているため、後日来校した際に貸し出して自宅学習することができるようになっている。自宅学習後は様式に従ってレポートを作成し、大学院生の素養の向上を自己点検できるように成長記録を記載して提出するようになっている。このように、社会人院生各自の事情に即して、柔軟にカリキュラム運営を行っている。

【自己点検・評価】

社会人大学院生への対応は大学院生ニーズを取り入れフレキシブルに対応しており、問題はない。大学院生アンケートでも社会人大学院生への対応を問うており、問題点があれば即座に対応を心がけている。

○ 今後の充実・改善

院生の構成において、6年生課程を修了した学部学生が進学する割合が低いのが問題点として挙げられる。現状、1～6年生学部学生への教科ガイダンスの際に、大学院進学への意義などをPRしているが、なかなか内部進学者が出てこないのが現状である。大学院担当教員はさらに大学院生にとっても魅力ある研究テーマを開発し、さらに医療機関との共同研究を充実させることによって、学部生からの進学率を高める必要がある。また、大学院修了後の進路に関しても大学院で習得した知識や技能が生かせる就職先の可能性を探索していくことも重要である。

ホームページのリンク先：<http://www.jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>